

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 塔野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるように なっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・ 改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

塔野 小学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
平成 2 5 年度	本市	60. 3	46. 3	74. 6	56. 5	
	全国	62. 7	49. 4	77. 2	58. 4	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	69. 1	52. 6	76. 2	55. 4	59. 7
	全国	72. 9	55. 5	78. 1	58. 2	60. 9
平成 2 7 年度	本市	67. 1	62. 1	73. 3	43. 7	57. 3
	全国	70	65. 4	75. 2	45	60. 8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、昨年度より上昇していた。 ・新聞のコラムを読んで、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成や表現の工夫を捉えることに課題があり、日ごろから新聞のコラムに関心をもつ等の指導の充実を図る必要がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字の読み書きの問題に関しては、正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	・話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題は、正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、記述式の問題に課題があり、根拠を示しながら自分の考えを書くことを習慣化する必要がある。 ・目的や意図に応じ、記事に見出しを付けることができるかどうかをみる問題に関して、新聞を書く目的や意図を明確にもつことができるように指導することが今後大切である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・目的に応じ、中心となる語や文を捉える問題は、正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	・文章と図を関連付けて、自分の考えを書く問題については、無解答率が高かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、数量や図形についての技能、知識、理解問題は、正答率が低かった。 ・算数の計算についての力が不足しており、基礎的な計算力をつける必要があった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・式に表現された数量の関係を図と関連付ける問題は、正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	・少数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉える問題は、正答率が低かった。	

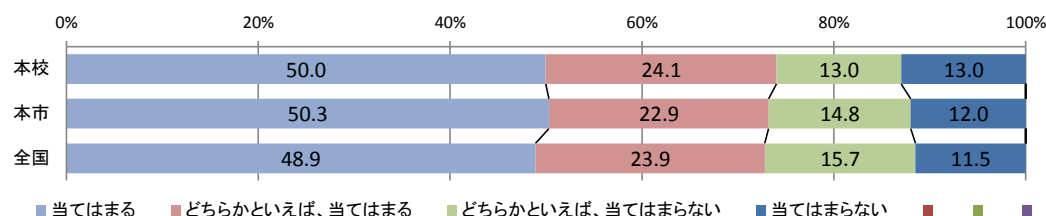
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、特に事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現する問題に対しては、無解答率が高かった。 ・筋道を立てて考えたり、振り返って考えたりすることを繰り返し行っていく必要があった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・平行四辺形を構成することができる、四つの辺の組み合わせを選ぶ問題は、正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	・目的に応じて見積もり方を選択し、その結果を用いて判断し、説明する問題は、正答率が低かった。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回ってはいるが、自然事象についての知識・理解に関する問題は、正答率が高かった。 ・科学的な概念やデータを基に考察し、判断の根拠について明確にし、理由を説明する場の習慣化が必要である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察する問題は、正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	・実験器具(顕微鏡)の名称や、操作方法の問題は、正答率が低かった。	

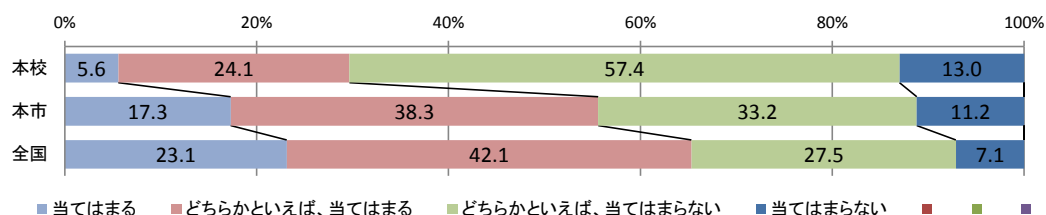
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

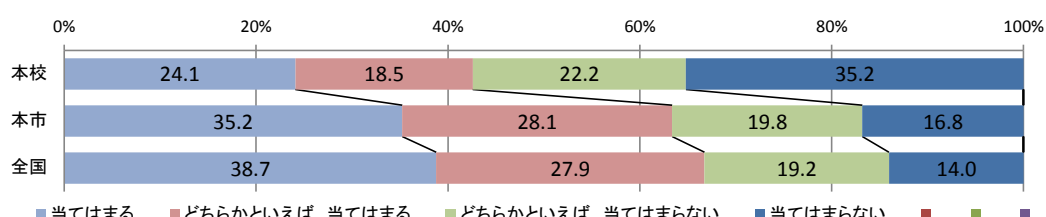
51
読書は好きですか。



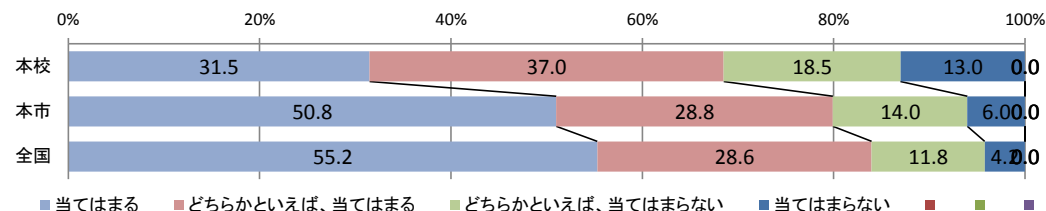
53
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。



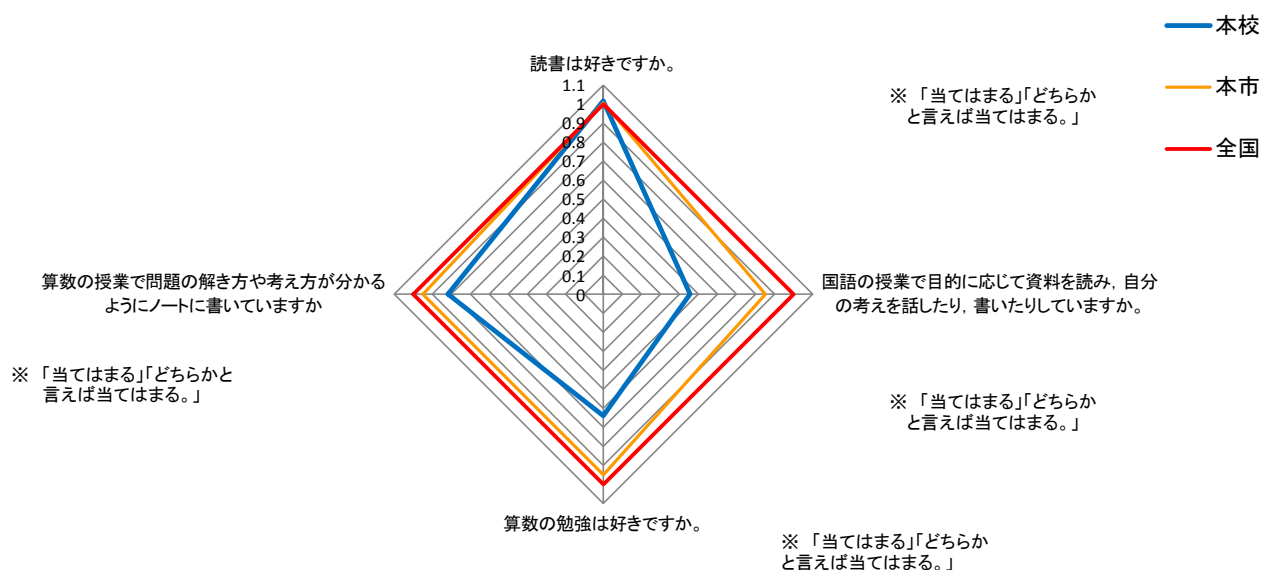
58
算数の勉強は好きですか。



67
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

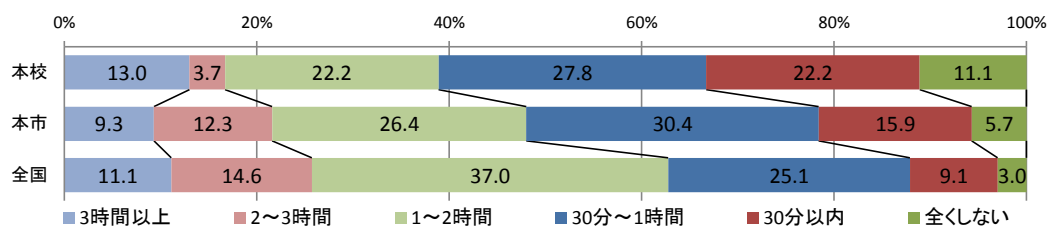
- ・読書好きな児童が多く、全国や市の平均を上回っている。読書ボランティアの方々の読み聞かせや、図書館の環境整備などからもよい影響を受けていると考えられる。
- ・文章に書くことに抵抗感を持っている児童が増加している。書くことに関しては、自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりして、書く活動を積極的に授業に取り入れる必要がある。
- ・算数の勉強が好きかの問いに対してどちらかといえば当てはまらない、あてはまらないの児童が半数以上いる。このことから基礎をしっかりと固めた上で、算数の楽しさを実感できるような取組をしていく必要がある。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

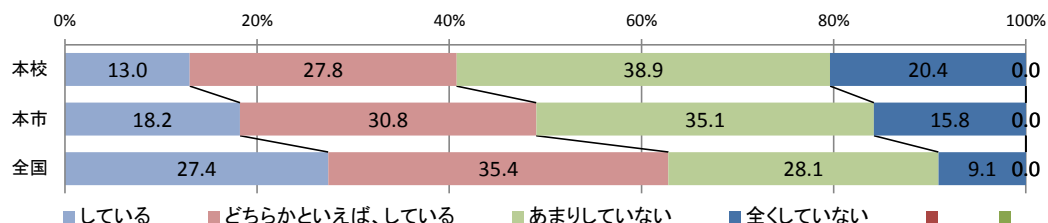
① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

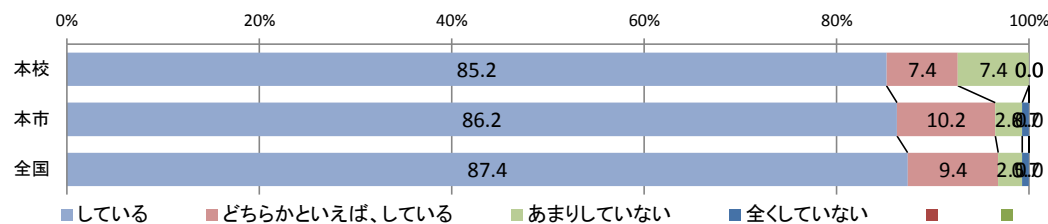
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます。)



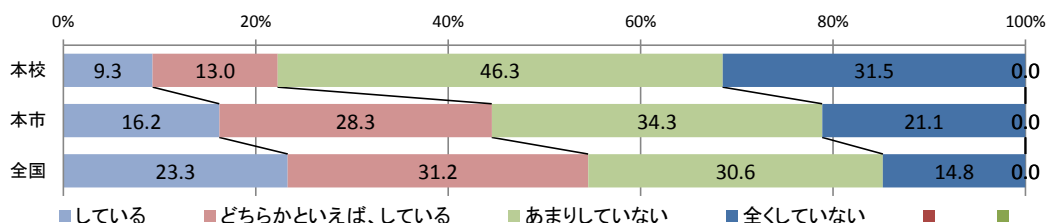
20
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



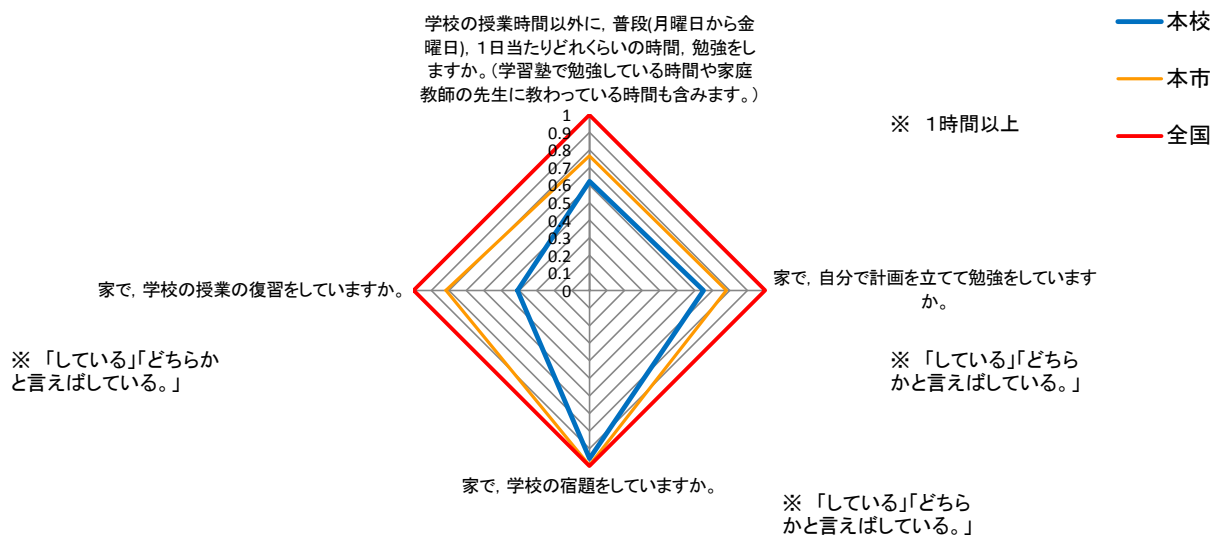
21
家で、学校の宿題をしていますか。



23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



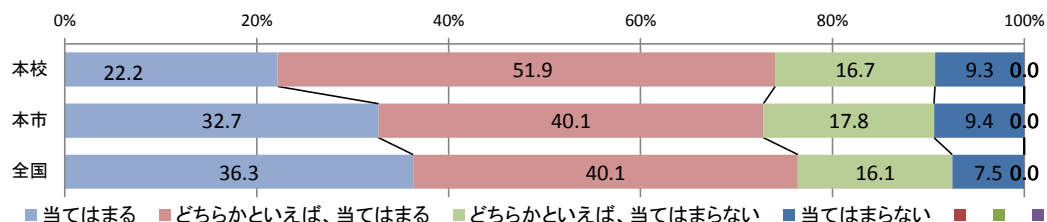
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、全体の約4割と全国や市に比べ低い数値となっている。また、家庭学習の絶対量が少なく、全校で学習時間のめやすを示しているが、なかなか達成されていない。さらに家庭学習の具体的な取組を考えていく必要がある。
- ・自分で計画して学習している児童の割合も全国や市に比べかなり低いので、自分の苦手教科の克服や今すべきことは何かを自覚する場の設定が必要である。
- ・学校から出される宿題は、ほとんどの児童がしているが、その他にその日に学習したことや、過去に学習したものを復習している児童は、全国や市に比べ低い数値となっている。

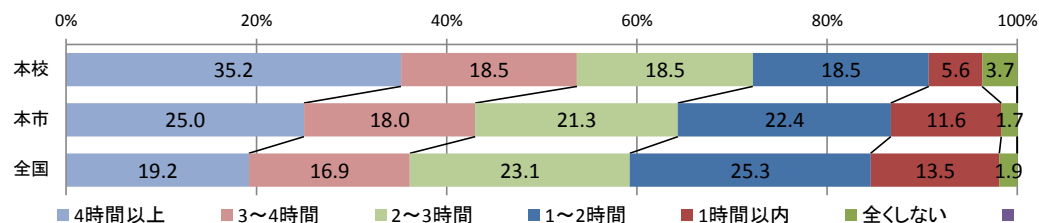
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

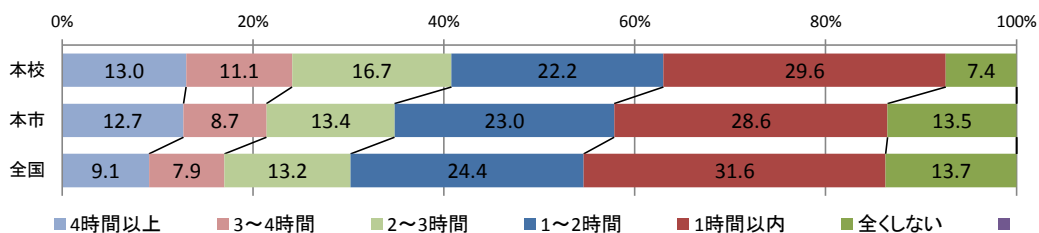
6
自分には、よいところがあると思いますか。



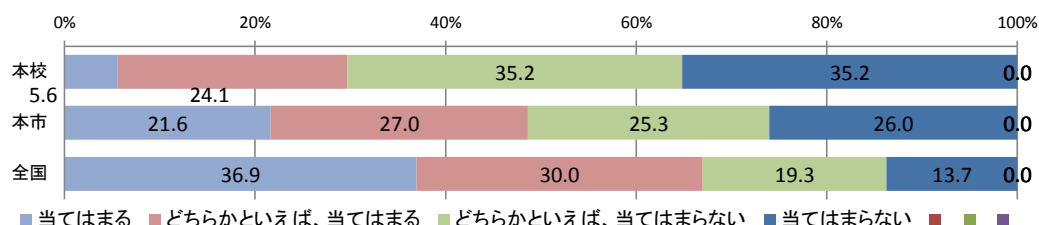
10
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除きます。)



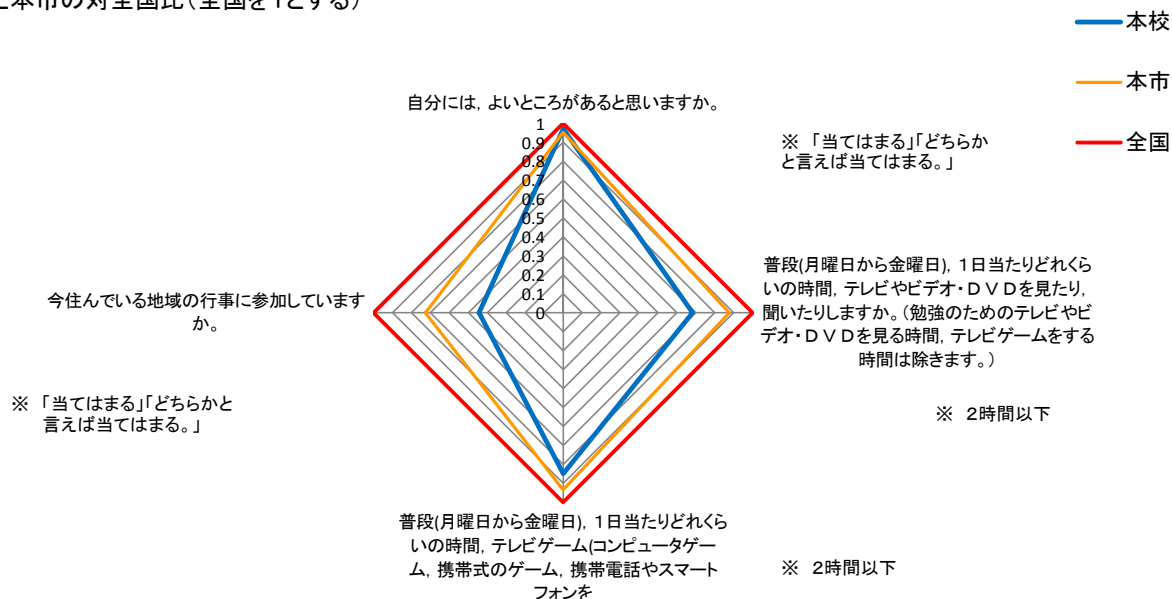
11
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか。



27
今住んでいる地域の行事に参加していますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・子どもが家で過ごす多くの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしていることが分かる。中でも4時間以上テレビやビデオを見る子どもが半数近い。夜遅くまで見ることで十分な睡眠時間が確保できていない。

・普段、1日あたりテレビゲームや携帯式のゲームを3時間以上している児童が5割以上いる。この結果が、早寝・早起き・朝ごはんにも影響していると考えられる。

・地域の行事への参加率は、全国では上昇傾向にあるが、本校では低い数値である。年間を通して、地域行事への積極的な参加をPTA理事会や学校便り等で呼びかけて、学校、家庭、地域の連携をとる必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組（全校・学年・学級・教科毎の取組）

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

（全校・学年・学級の取組）

- ・学力向上に関する職員の意見交換の場を定期的に実施する。
- ・学力向上プランの共通理解と、学年、学級での取組内容の確認
- ・学力向上のための特設時間の実施（全校一斉チャレンジタイム毎朝8:35～8:50）
- ・小中連携サポーターの計画的な配置、活動補助、プリントの整備
- ・全国学力学習状況テストやCRTへ向けての過去問題、アシストシート、活用を高めるワークを活用する。
- ・単元末に過去問題や活用ワークの問題を位置付ける。
- ・「書く」ことを習慣化する。（学習のめあてとまとめ、振り返りを素早く書くことができるようにする。）
- ・国語や算数に限らず、理科や社会科その他の教科でも自分の考えを理由を含めて書き、周りに伝えるという活動を積極的に取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・自主学習ノートを活用し、自分から苦手箇所の復習や好きな学習に取り組むことができるように声かけをお願いします。
- ・家庭学習時間の設定（低学年30分、中学年45分、高学年60分をお願いします。）
- ・「塔野小家庭学習の手引き」を再配布しますので、ご覧になり、ご協力をお願いします。
- ・長期休業日の宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を出しますのでご家庭でも活用してください。